

「幼児と触れ合おう」

本題材で育成する資質・能力

表現力, コミュニケーション能力, 主体性・積極性

1 題材設定の理由

(1) 題材観

本題材は、学習指導要領の内容「A家族・家庭と子どもの成長」の、項目(3)「幼児の生活と家族」の指導事項ア～エを取り扱うように設定している。

ア 幼児の発達と生活の特徴を知り、子どもが育つ環境としての家族の役割について理解すること。

イ 幼児の観察や遊び道具の製作などの活動を通して、幼児の遊びの意義について理解すること。

ウ 幼児と触れ合うなどの活動を通して、幼児への関心を深め、かかわり方を工夫できること。

エ 家族又は幼児の生活に関心をもち、課題をもって家族関係又は幼児の生活について工夫し、計画を立てて実践できること。

幼児にとって遊びは、身体の発育や運動機能、言語、情緒、社会性などの発達を促し、生活そのものである。本題材では、生徒が幼児の心身の発達を踏まえ、幼児が喜ぶ遊び道具を製作し、自分が製作した遊び道具を使って、幼児と触れ合う直接的な体験をすることで、生徒の幼児への関心や理解を深めることをねらいとしている。

(2) 生徒観

幼児についての意識調査を第3学年3組(35名)に実施した。

幼児と触れ合うことについての意識調査及び結果(3年3組)

(1)	幼児と触れ合った経験がある。	94% (33人)
(2)	幼児と触れ合った経験がない。	6% (2人)
(3)	幼児と触れ合うのは楽しい、どちらかという と楽しいと思う。	67% (22人)
(4)	幼児と触れ合うのは苦手、どちらかという と苦手だと思う。	33% (11人)
(5)	幼児と触れ合うのは苦手、どちらかという と苦手だと思う理由。	・どうすればよいかわからないから。 ・騒がしかったり、すぐ泣いたりするから。

「(1) 幼児と触れ合った経験がある。」と答えた生徒33人のうち、33%(11人)が「(4) 幼児と触れ合うのは苦手、どちらかという苦手だと思う。」と回答していた。「(2) 幼児と触れ合った経験がない。」と答えた生徒2人は、2人とも「幼児と触れ合うのは苦手だと思う。」と回答していた。「(5) 幼児と触れ合うのは苦手、どちらかという苦手だと思う理由。」については、「幼児とどう接すればよいかわからないから。」「騒がしかったり、すぐ泣いたりするから。」であった。

これらのことから、幼児への理解が不足していると考えられる生徒が全体の1/3以上おり、幼児への理解が十分でないことが課題である。

(3) 指導観

家庭科では、実践的・体験的な学習活動を通して具体的に学習することが重要である。そのため、本題材では指導の工夫として、地域の保育園の幼児との触れ合い体験を設定する。このことは、生徒が保育園に行くことで、年齢の違う幼児を直接観察することができ、幼児の発達段階における、ことば、情緒・社会性、運動機能について、理解を深めやすくなるのではないかと考えたためである。また、保育園での幼児との触れ合い体験は、幼児だけではなく、保育園の先生の指導の様子を観察できるので、幼児との接し方が苦手な生徒が、幼児への接し方のアドバイスを受けることができるという利点がある。

幼児と触れ合い、幼児についての理解を深めるため、生徒の主体的な学びとして、次のような工夫をする。

- ① 題材全体をとおして問題解決的な学習の流れを設定する。
- ② 学習課題を設定して、意欲を持たせる。
- ③ 触れ合い体験の当日のシナリオをグループで作成させることで、体験学習への意欲を高めさせる。
- ④ 幼児への関心を高めるため、「幼児の遊び道具などの製作」を夏季休業中の課題として家庭で製作させ、家族から自分の幼いころの様子を聞く機会を増やす

2 学校が育成を目指す資質・能力

本題材を通じて育成を目指す資質・能力は、「表現力、コミュニケーション能力」である。この目指す資質・能力を育成するためには、各教科、領域等の授業における「展開場面」において、生徒が主体的に活動するためには、「強い問題意識と達成欲求を抱かせる課題設定」が不可欠であると考え、研究を重ねている。

本題材においても、「解決したい」或いは「達成したい」学習課題を設定し、学習班で考えを何度も練り直させ、思考したことをミニホワイトボードに表現した後全体へ発表させるスタイルをとっている。

3 題材の目標

製作した遊び道具を用いた幼児との触れ合い体験を通して、幼児に関心をもち、幼児の心身の発達や遊びの意義について理解し、幼児との関わり方を工夫することができる。

4 題材の評価規準

生活や技術への 関心・意欲・態度	生活を 工夫し創造する能力	生活の技能	生活や技術についての 知識・理解
幼児の生活と家族に関心をもち、課題をもって幼児の生活について工夫し、計画を立てて実践しようとしている。	幼児の遊び道具の製作や幼児と触れ合うなどの活動を通して、幼児の生活や関わり方について課題を見付け、その解決を目指して自分なりに工夫し創造している。	幼児の遊びや心身の発達について、観点に基づいて観察し、整理することができる。	幼児の心身の発達の特徴や遊びの意義について理解している。

5 指導計画（全15時間）

過程	次	学習内容（時数）	観 点				評価規準 （観点）	評価方法	
			関 意	工 夫	技 能	知 理			
課題 の 設 定	1	○幼児との触れ合い体験とはどんなものだろう。 ○幼児の生活の中心を考えよう。（1時間）	○			○	①幼児との触れ合い体験について関心をもち、計画を立てて実践しようとしている。（関） ①幼児にとっての遊びの意義について理解している。（知）	・行動観察 ・ノート ・ペーパーテスト	
情報 集 集	2	○遊びを通して育つ力とはどんな力だろう。（1時間）				○	①幼児にとっての遊びの意義について理解している。（知）	・行動観察 ・ノート ・ペーパーテスト	
	3	○幼児の発達と家族の役割について考えよう。（2時間）				◎	②幼児の心身の発達の特徴について理解している。（知） ③基本的な信頼関係や生活習慣の形成の重要性とそれを支える家族の役割について理解している。（知）	・行動観察 ・ノート ・ペーパーテスト	
	4	○幼児の遊びを豊かにする遊び道具を考えよう。（1時間）	○				○	②幼児の心身の発達に応じた遊び道具について関心をもち、計画や製作に取り組もうとしている。（関） ①幼児の心身の発達に応じた遊び道具について考え、課題を見付け、その解決を目指して遊び道具の製作計画を自分なりに工夫している。（工）	・行動観察 ・ノート ・ワークシート
	○夏季休業中に家庭で遊び道具の製作をする。								
課題 の 設 定	5	○幼児との触れ合い体験で何を学ぶのか考えよう。（1時間）	○				③幼児や幼児の家族に関心をもち、適切に関わるために、自分なりの目標を設定しようとしている。（関）	・行動観察 ・ワークシート	
情報 集 集	6	○幼児との関わり方を考えよう。（2時間） 【本時2／2】		○			②幼児との触れ合い体験について設定した目標の達成を目指して、製作した遊び道具を用いた幼児との遊び方、幼児との関わり方についての計画を自分なりに工夫している。（工）	・行動観察 ・ワークシート	
	7	○幼児と触れ合おう（2時間）	○			○	④幼児と触れ合う活動などを通して幼児に関心をもち、適切に関わろうとしている。（関） ①幼児の遊びや心身の発達について、観点に基づいて観察し、整理することができる。（技） 【主体性・積極性】	・行動観察 ・ワークシート 【レポート】	
整理 ・ 分 析	8	○幼児との触れ合い体験についてまとめよう。（2時間）				◎	①幼児の遊びや心身の発達について、観点に基づいて観察し整理することができる。（技）	・行動観察 ・ワークシート ・レポート ・ペーパーテスト	
表 現	9	○幼児との触れ合い体験について伝えよう。（1時間）		◎			③幼児と触れ合う活動などの実践の成果と課題についてまとめたり、発表したりしている。（工） 【表現力・コミュニケーション能力】	【行動観察】 【ワークシート】 【評価表】	
実 践 ・ 振 り 返 り	10	○幼児の喜ぶものを作ろう。（2時間）	◎				⑤幼児の生活をよりよくすることに関心をもち、課題を主体的に捉え、製作などの計画と実践に取り組もうとしている。（関）	・行動観察 ・ワークシート	

6 本時の学習

(1) 本時の目標

幼児との触れ合い体験に向けて、自分が製作した遊び道具を用いた関わり方を工夫することができる。

(2) 本時の評価規準

幼児との触れ合い体験について設定した目標の達成を目指して、製作した遊び道具を用いた幼児との遊び方、幼児との関わり方についての計画を自分なりに工夫している。

(生活を工夫し創造する能力)

(3) 準備物

教科書，ワークシート，写真，ホワイトボード（黒板 生徒用），シナリオ（生徒用，掲示用）

7 学習の流れ（8時間目／全15時間）

学習活動	指導上の留意事項（◇） （◆「努力を要する」状況と判断した生徒への指導の手立て）	評価規準〔観点〕 〔評価方法〕
<p>1 既習事項の確認 (5分)</p>	<p>◇2歳の幼児の特徴，触れ合い方のコツを振り返る。</p>	
<p>【ポイント1】 意欲を持たせる学習課題</p>		
<p>学習課題：「出張 日比崎中 おもちゃ王国」を成功させるシナリオを作ろう。</p>		
<p>(ねらい) 自分の製作した遊び道具を用いて幼児への関わり方の工夫ができる。</p>		
<p>2 グループ練習① (1) ①グループが演じ，②グループは幼児役になり，幼児との触れ合い体験の遊び方を練習する。 (3分)</p>	<p>◇被服室を下図のように4つのエリアに分け，グループ練習を行わせる。</p> <div data-bbox="564 1346 1305 1823" style="text-align: center;"> </div> <p>◇同じ教室に入るグループ（赤①②，青①②，黄①②，緑①②）でおもちゃをもたせて実際に演技を行わせる。 ◇気づきをワークシートに記入させる。 ◆よかった点を見つけさせる。</p>	

【ポイント2】
問題解決意識を持たせる観察

(2) ②グループは①グループへ気づきを伝える。
 (1分)

- ◇お互いにアドバイスさせる。
- ◆よかった点を伝えさせる。

予想される気づき

- ・姿勢を低くしたほうがよい。
 - ・笑顔で話しかけよう。
 - ・ゆっくり話す方がよい。
 - ・おもちゃをもっとアピールしたら？
- など

(3) ②グループが演じ、①グループは幼児役を交代して練習する。
 (3分)

- ◇気づきをワークシートに記入させる。
- ◆よかった点を見つけさせる。

(4) ①グループは②グループへ気づきを伝える。
 (1分)

- ◇お互いにアドバイスさせる。
- ◆よかった点を伝えさせる。

予想される気づき

- ・自分たちより上手い。
 - ・笑顔で話しかけよう。
 - ・ゆっくり話す方がよい。
 - ・動作をゆっくり大きくしたら？
- など

3 シナリオ修正

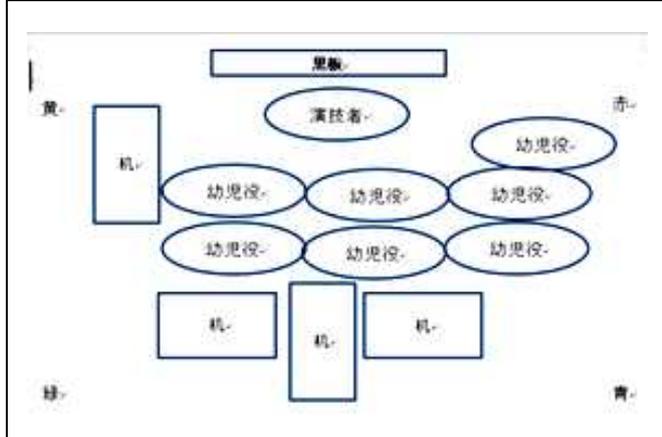
他のグループの演じた内容やアドバイスをもとに、自分たちのシナリオを修正する。
 (5分)

- ◇自分たちのグループに取り入れられることはないか考えさせる。
- ◆他のグループでよかったと思った点を取り入れるように伝える。

【ポイント3】
 深化・発展意欲を持たせる

4 模範グループ演技の観察
 模範になるグループの関わり方を見る。
 (3分)

◇よく見えるように下図のように隊形移動を行わせる。



◇自分たちが気付かなかった考えに気付かせるため、2グループ見本を選び、シナリオを演じさせる。
 ◇メモを取らせる。

5 グループ討議
 グループの中で、見本になるグループのよかった点、取り入れたい点と、幼児と関わる時に、気を付けるとよい点をまとめ、発表する。
 (5分)

◇幼児との関わり方の工夫点でどこがよかったのか、幼児と関わる時に、気を付けるとよい点をまとめ グループでホワイトボードに意見をまとめさせる。

◆関わり方のコツを振り返らせる。

【ポイント4】
 自分や集団の考えを発展させるための話し合い活動

ホワイトボード

よかった、取り入れたい点

- ・笑顔がよかった
- ・優しい雰囲気が出た
- など

幼児と関わる時に、気を付けるとよい点

- ・笑顔で
- ・優しく話しかける
- ・楽しませようとする
- など

- 予想される答え
- ・ 幼児と視線を合わせていた。
 - ・ 幼児が興味を持つように劇のようにしていた。
 - ・ 優しい雰囲気がした。
 - ・ 幼児を楽しませようと歌をうたっていた。
 - ・ 複数のおもちゃを使って遊んでみせていた。
 - ・ 笑顔がよかった
 - など

<p>6 グループ練習②</p> <p>(1) シナリオを修正する。 (5分)</p> <p>(2) 修正したシナリオを用いて、グループ練習①と同じように、演技、観察、アドバイスをを行う。 (8分)</p> <p>7 個の考えのまとめ</p> <p>自分が幼児とどう関わ かを工夫する (6分)</p>	<p>◇グループ練習①の隊形に移動させる。</p> <p>◇幼児と触れ合う際に気を付けよう、忘れないでおこうと 思うことをまとめさせておく。</p> <p>◆他のグループでよかったと思った点を振り返らせる。</p>	<p>自分の製作した 遊び道具を用いて 幼児への関わり方 の工夫ができる</p> <p>②幼児との触れ合 い体験について設 定した目標の達成 を目指して、製作 した遊び道具を用 いた幼児との遊び 方、幼児との関わ り方についての計 画を自分なりに工 夫している。〔生 活を工夫し創造す る能力〕 (ワークシート)</p>
<p>生徒のまとめ例</p> <p>私は、幼児が苦手なので、幼児と少しでも関わりたい。関わるときには幼児の 目線にひざ立ちして、笑顔で話しかけるといいことが分かったので、そうしたい。</p>		
<p>【評価】(ワークシート)</p> <p>【生活を工夫し創造する能力】</p> <p>A : 幼児との触れ合い体験について設定した目標の達成を目指して、幼児の心身の発達に 応じた関わり方について考え、自分の製作した遊び道具を効果的に活用し、自分 なりに工夫して具体的な関わり方の計画をしている。</p> <p>「例 私は、幼児が苦手なので、幼児と少しでも関わるために関わる事ができた人数 を数えようと思っている。そのときは、まず、幼児の目線になるようにひざ立ちし て、私の作ったおもちゃと一緒に遊んでくれない?と笑顔で話しかけて、使い方 をゆっくり説明したい。」</p> <p>B : 幼児との触れ合い体験について設定した目標の達成を目指して、幼児の心身の発達 に応じた関わり方について考え、自分なりに工夫して関わり方の計画をしている。</p> <p>「例 私は、幼児が苦手なので、幼児と少しでも関わりたい。関わるときには幼児の目 線にひざ立ちして、笑顔で話しかける。」</p>		
<p>8 本時を振り返り、次時に つなげる (5分)</p>	<p>◇本時の目標を意識して学習ができたか自己評価させる。</p> <p>◇修正の成果を確認する。</p>	